

下水道だより

未来に引き継ぐ下水道 vol.14

令和4年5月16日発行

上下水道管理課

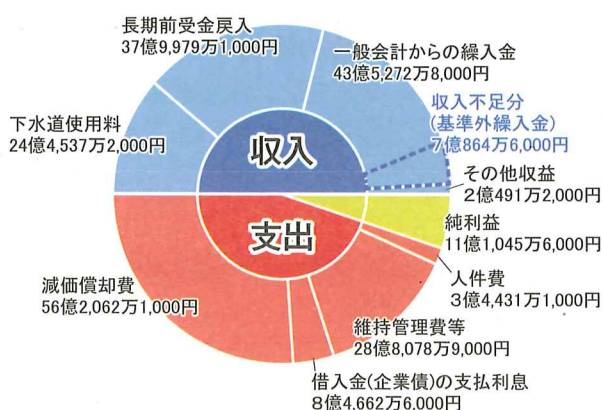
☎237-5811 FAX237-5819

市民の皆さんに津市の下水道事業をもっと知っていただくため、課題や経営状況についてシリーズでお伝えしています。

今回は、下水道事業会計の令和4年度予算について、主な工事内容を中心に見ていきます。

令和4年度予算を見てみよう！

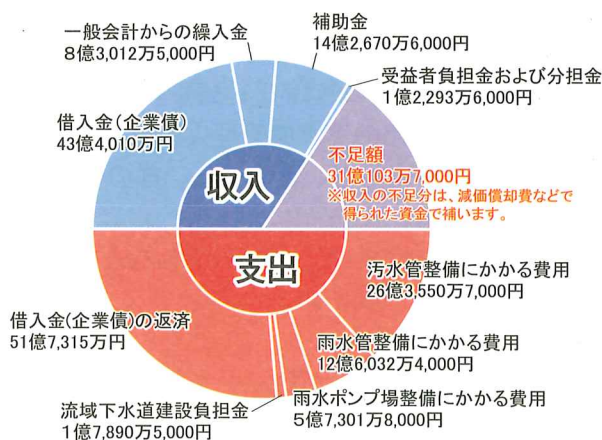
収益的収支



収益的収入	108億 280万 3,000円
収益的支出	96億9,234万 7,000円
純利益	11億1,045万 6,000円

※税込み

資本的収支



資本的収入	67億1,986万 7,000円
資本的支出	98億2,090万 4,000円
不足額	31億 103万 7,000円

※税込み

収益的収支…その年度の下水道事業の提供に必要な費用と収入

- 主な収入…下水道使用料、一般会計からの繰入金
- 主な支出…下水道施設の維持管理費用、借入金の利息

資本的収支…将来にわたり下水道を維持するために必要な施設の整備や拡充などに係る費用と収入

- 主な収入…事業に対する企業債、補助金、一般会計からの繰入金
- 主な支出…施設の整備や老朽施設の更新費用、借入金の返済



令和4年度の公共下水道事業の予算が確定したから紹介するね。



令和4年度も一般会計からの基準外繰入金が約7億円もあるんだね。

基準外繰入金ってなに？

本来、下水道使用料で賄うべき額(①)と、下水道使用料(②)の差額で、市の税金で補っている額(③)です。



令和元年10月に下水道使用料が改定されたけど、汚水処理費など本来下水道使用料で賄うべき額が不足しているということなんだ。




企業会計は独立採算が原則だから、基準外繰入金をもっと減らさないといけないね。

ところで、将来にわたり下水道を維持するために、必要な施設の整備や拡充などに係る費用に約98.2億円計上されているけど、どんなことをしてもらえるの？




次のページで、どんな事業が行われるか詳しく見てみよう。


令和4年度の主な事業


 まず、令和4年度の公共下水道の整備は、主に次の処理区で進められるよ。


公共下水道の整備 約21.3億円

- 志登茂川処理区
 - ・ 津北部地区(津北部第13処理分区など)
 - ・ 河芸地区(千里ヶ丘処理分区)
 - ・ 安濃地区(安濃処理分区など)
- 雲出川左岸処理区
 - ・ 津地区(津第5-2処理分区など)
- 汚水管・管更生


 公共下水道の整備って汚水管のことだよな。この整備にかかる予算は約21.3億円なんだね。ところで、津市の下水道処理人口普及率は全国的に低いつて聞いたけど、どれくらいなの？

 令和2年度末で、まだ51.3%なんだ。ちなみに全国平均は80.1%だよ。

 ずいぶん低いんだね。

 志登茂川浄化センターの運用が平成30年4月ようやく開始されたから、重点的に志登茂川処理区内の整備を進めているよ。
下水道の利用が可能になった地区から順に、みんなに早く接続してもらうことが必要だね。

 雨水の排水はどうなっているの？

 主に次の雨水幹線の築造やポンプ場を建設しているよ。どれも完成までに数年かかる大規模な工事なんだ。


雨水排水施設の整備 約10.8億円


- 半田川田第1雨水幹線築造工事
(令和2～4年度の継続事業)
- 藤方第2雨水幹線築造工事
(令和4～8年度の継続事業)

雨水ポンプ場の建設 約5.7億円

- 半田川田ポンプ場(3号ポンプ)築造工事
(令和3・4年度の継続事業)
- 極楽橋ポンプ場ポンプ設備改築工事
(令和4・5年度の継続事業)

※金額はいずれも令和4年度の事業費(税込み)

 たくさん雨が降っても浸水の心配がいない街になるといいね。

 浸水対策事業については、令和2年度に個別補助事業制度が創設され、津市の事業も採択されたから、これを活用して10年間の雨水対策事業費を100億円から140億円に増額して、計画を前倒しして進めるよ。

公共下水道工事が完了し、下水道が利用できるようになった日から3年以内に、排水設備工事を行っていただきますようお願いいたします。

汚水管・管更生の様子



管更生中の大口径の汚水管



老朽化した小口径の汚水管

管更生した小口径の汚水管

※いずれも左側の欠けた部分は接続口

汚水管の修理や耐震化は、内側を特殊な加工で改築する管更生工法を採用。道路を掘り返さず工事できるため、安価で短期間の施工が可能です。老朽管を放置すると、ひび割れ箇所から雨水が混ざり汚水処理費用がかさむことにもなります。

雨水管・幹線工事の様子

雨水幹線は、大雨の時に道路側溝などから集まった雨水を河川へ安全に放流し、街を浸水の被害から守るための重要な水路です。



直径2.6mの雨水管を埋設するために使用した掘進機を地上へ運び出す様子

おわび 広報津令和3年12月1日号折り込み紙「下水道だよりvol.13」の志登茂川浄化センターの写真説明に誤りがありました。「栗真海岸に位置する」とあるのは、正しくは「白塚海岸に位置する」です。おわびして訂正します。